

市立小中学校適正配置実施計画検討に関する
大花羽地域への説明会・意見交換会の主なご意見

主な意見		
No	保護者意見	教育委員会の考え方
1	スクールバスについて、費用負担は決定していますか。	費用負担については、今後検討することになります。 ただし、通学に関して、大花羽小学校、菅原小学校ともに遠距離通学になる児童がいることを確認しております。そのようなことから、統合後のスクールバスについては、どちらかの学校のみでの運行ではなく、新統合校としての全エリアにスクールバスを運行していきたいと考えております。
2	小学校が無くなるということは地域住民として、行事や伝統が無くなるのでさみしい気持ちです。人口減少や複式学級の問題を考えると、やむを得ないことだと思いますが、小学校は地域にとっても大切なものであり、何らかの形で残す方法も考えてもらいたいと思います。	小学校が地域にとってのシンボルであり、重要なものであることは認識しております。ただし、子供たちの教育環境の改善の重要性も非常に重く受け止めているところです。 学校跡地については地域コミュニティが充実を考え、有効活用できるよう教育委員会だけでなく市として考えてまいります。
3	菅原小との統合が決定した理由はなんですか 大花羽小学校の校舎をメインに使用することはできませんか。	地域性や過去の交流授業において、様々な面で強い結びつきがあること、平成22年に提出された審議会の答申に統合案として、大花羽小と菅原小の統合計画が挙がっていたこと、また、現在の学童クラブを菅原小と合同で行っている点が挙げられます。建物の収容人数の観点から、菅原小学校の方が建物の容量が大きいため、両校の児童を受け入れることを考えた場合、菅原小学校の建物を使用することが考えられております。
4	実際、羽生地区では、豊岡小に行っている子もいる。 学区を基本に進めるのであれば、統合を機に元の学区に戻すこともあるのか。	違う学区に行く児童には特別な理由があるため、今現在通っている子に対して、統合を機に元の学区に戻ってもらうことはありません。

主な意見		
No	保護者意見	教育委員会の考え方
5	菅原小と統合した後、再度、豊岡小と統合するのであれば、初めから豊岡小と統合したほうがいいのではないかと。	現時点では、大花羽小と菅原小と豊岡小の児童を受け入れるだけのキャパシティを持つ施設がありません。 3校の統合を実施するためには施設を整える必要がありますが、施設の整備には時間を要するため、完成を待つ間、複式学級が解消できず継続してしまいます。複式学級の解消は早急な対応が必要と考えておりますので、第1段階として、菅原小との統合を実施し、その後適正規模に向けての統合ということで豊岡小との統合へ進めていきたいと考えております。